

# 平成28年度 自己評価実践報告書

学校名 福島県立福島北高等学校

## I 自己評価の概要

### 1 「学校経営・運営ビジョン」について

#### (1) 「学校経営・運営ビジョン」

(別紙「学校経営・運営ビジョン」参照)

#### (2) 教育目標・重点努力事項等作成のねらい、意図等

生徒一人ひとりの興味・関心等に基づく主体的な学習を通して、個性を伸ばさせ、将来の生き方や進路について考察を深め、社会に貢献する人材として必要な資質を育むために、教育目標、重点努力事項を作成した。本年度の重点目標は平成27年度と同じく4本柱とした。

#### (3) 作成のプロセス

昨年度の反省点をもとに作成した原案を各部・各年次の長（主任）で構成される運営委員会で検討を行い、職員会議の審議を経て決定した。

### 2 校内組織体制について

#### (1) 組織図

(別紙「学校評価計画票」参照)

#### (2) 組織作成のねらい

学校評価を行うにあたっては、各部・各学年の具体目標を集約・調整し、学校全体の課題を明らかにして全体の重点目標を設定する必要がある。また、家庭や地域の学校に対する評価を客観的に把握し、教育活動の改善や新たな取り組みに繋げる必要がある。そのため学校全体の運営を検討する校務運営委員を学校評価担当者として組織し、目標設定や学校評価を検討して立案し、運営委員会で検討して職員会議に提示することとした。

### 3 自己評価の年間計画について

#### (1) 年間計画表

(別紙「学校評価計画表」参照)

#### (2) 作成のねらい

組織的・計画的に評価を実施し、PDCAサイクルに沿って、学校評価を教育活動の充実・改善に生かす。

#### (3) 自己評価年間実施状況

12月に中間評価、3月に年度末評価とほぼ予定通りに実施することができた。

## II 評価結果の概要

### 1 実施方法等

生徒、保護者、学校評議員、教職員にアンケートを行い（9月）、その結果を踏まえ中間評価（12月）及び年度末評価（3月）を行った。

「学校評価」は学校評議員に公表し、次年度の学校経営運営ビジョンに対し、意見をいただいた。

## 2 アンケート及び回答数等

評価者		学校評価のためのアンケート調査	
		実施時期	実施方法
教職員		8/26～9/5	アンケート調査
教職員 以外	生徒	8 / 30	同上
	保護者	8/26～9/5	同上
	学校評議員	8/26～9/5	同上

- ・ビジョンに関するアンケートの項目数は14項目とし、その他、地域との連携の状況や家庭との情報伝達、総合評価としての満足度調査を加え、18項目の質問を準備した。(資料1)

評価者		中間評価のためのアンケート		
		対象数	回答数	割合
教職員		53	53	100.0%
教職員 以外	生徒	586	580	99.0%
	保護者	586	407	69.5%
	学校評議員	3	3	100.0%

- ・アンケートの回収率は、教職員については100%（期間内に全員から回収できた）、生徒は99%、保護者は69%、学校評議員が100%であった。  
全体では評価対象者1,228名中、回答者1,043名、回収率84.9%であり、昨年に比べて回答率はやや高くなった。これは、保護者の回答率が昨年より上昇したためである。

## 3 評価基準について

	4	3	2	1	無回答
アンケートの 評価基準	そう思う	ややそう思う	あまりそう思 わない	そう思わない	判断できない (わからない)
自己評価の 評価基準	できている	ややできてい る	あまりできて いない	できていない	

- ・アンケート調査による評価指数は、4段階評価であり、無回答は点数化しないで、1～4と答えたサンプルのみを点数化し（1につき1点）、平均を出すことによって（標準平均＝2.5）、回答者全体の意見を数値化してとらえた。
- ・アンケートの統計については、「4：そう思う」と「3：ややそう思う」の合計の割合＝肯定的回答のみ表示して統計を見やすくした。
- ・自己評価について、アンケートがある小項目についてはアンケート結果を分析し4段階評価を実施、アンケートがない小項目については担当する部署で4段階評価を行った。
- ・中項目、大項目についても全体的な達成度を測るために小項目の合計の平均を出し4段階評価を実施した。

## 4 平成28年度末評価のまとめ

### (1) 年度末評価の目的、意図

年度初めに示した教育目標や「学校経営・運営ビジョン」の達成状況を、アンケート調査の結果をもとに自己評価し公表することで、本校の教育活動を広く理解していただく。また、今後の本校の在り方について、ご意見や要望を伺うことにより学校運営の改善・充実に生かし、開かれた学校づくりを推進する。

### (2) アンケート結果及び年度末評価結果の分析(別紙「学校評価(年度末自己評価表)」参照)

### (3) 重点努力事項に対する達成状況 (別紙「学校評価(年度末自己評価表)」参照)

(4) 分析に基づく改善の方向  
＜主な項目の現状及び改善点＞

○Ⅰ 総合学科教育の推進

・「キャリア教育の推進」では、各年次で進路ガイダンスを実施し、生徒の進路意識の高揚に効果があった。それ以外にも生徒が希望する学校に個別に来校してもらいガイダンスを実施するなど細やかな対応ができた。

・「科目選択のサポート」では、生徒の進路希望や興味関心に沿った科目選択になるように、適切に指導することが出来た。一方で、施設や教員数による制限から、講座を開講できなかつたり、人数の制限をしたりといったことが起こる。

○Ⅱ 規律ある生活態度の育成

・「基本的生活習慣の確立」では、各年次が中心となって指導に取り組み、効果があった。一方、日常の指導では各年次間でやや温度差があった。

・「規律厳守とマナー」では、生活に関するアンケート、いじめに関するアンケート、面接は生徒の実態把握に効果があった。把握した実態への対応についてはコミュニケーションを十分に取りながら学校全体で取り組む体制をさらに強化したい。

・「教育相談の充実」では、問題を抱える生徒に対し、スクールカウンセラーとの連携・協力のもと、教職員間の共通理解を図りながら対応することができた。しかし、生徒の評価は低いことから、面談週間の設定や生徒との関係づくりをさらに進める必要がある。

○Ⅲ 基礎学力の向上と進路実現

・「学習習慣の確立と基礎学力の向上」では、授業態度に対する教員の評価が前年度より低下している。主体的に授業に取り組む必要性を理解させたい。また、校内研修会等により、教員の授業力の向上を図った。今後も継続していく。

・「生徒の進路実現」では、就職・進学ともに順調に決定した。平常課外、小論文課外、公務員課外を実施しているが、公務員課外は人数が少なく、今後実施方法を検討する必要がある。

○Ⅳ 健康な心身の育成

・「生徒会活動の活性化」では、部活動の年度初めの加入率は低下傾向にあり本年度は79.9%であった。3年女子が68.6%と顕著に低く、加入率を引き下げている。募集定員減を契機に部活動の配置と活性化の方策を検討する必要がある。

・「ボランティア活動の推進」では、ボランティア依頼を割り振り、担当教員が生徒に働きかけることで参加者を募集できた。しかし、特定の生徒の参加となっており、学校全体で取り組んでいくように検討する必要がある。

・「環境美化・環境整備」では、以前より掃除に積極的に取り組む様子が見られ、階段や通路の清掃状況も良好である。

・「健康教育の推進」では、性教育講演会を各年次でそれぞれの発達段階に応じた内容で実施した。

○ 家庭・地域との連携

・家庭との連携では、今年度も冬の通学路確保のための竹やぶ伐採を保護者協力のもと実施することができた。また、公開文化祭等の学校行事でPTA役員をはじめ保護者の協力を得ることができた。

・地域との連携では、10月の公開文化祭及び12月の総合学科発表会においては開催チラシを作成し、地元住民に周知した。

・「学校案内」やPTA会報「北斗」により、本校の活動内容を保護者、中学校、地域に発信することができた。今後、さらに充実を図りたい。

○満足度調査

・生徒の満足度は高い。しかし、約4分の1の生徒は不満と感じており、進路目標の設定等、目的意識を再確認させるなどのフォローが必要である。

### Ⅲ 広報の概要

#### 1 目的や意図

本校の教育活動の成果や課題について保護者や地域住民に説明責任を果たすとともに、開かれた学校づくりを推進し、本校に対する理解を深めることで、本校教育に対する協力を得る。さらに、本校の教育について広範な意見を聴取することを可能とし、教育活動のさらなる改善を目的とする。

#### 2 実施計画及び実施状況

4月：「学校経営・運営ビジョン」公表

9月：アンケートの実施

##### 1 2月：アンケート結果の分析

2月：年度末自己評価の実施

3月：学校評価・評価結果の公表

#### 3 配布対象、配布時期、配布方法

配布対象：評価者（生徒、保護者、教職員、学校評議員、一般市民）

配布時期：4月（学校経営・運営ビジョン）

9月（アンケート・アンケート結果・分析）

3月（年度末自己評価・学校評議員による学校評価）

配布方法：印刷物、PTA総会及び役員会  
学校評議員会、各種行事

#### 4 実施してみたの反省点等

HPへの掲載の他、PTA総会時に校長が「学校経営・運営ビジョン」の説明を行った。「学校経営運営ビジョン」をより、分かりやすく工夫したことにより、保護者の理解が深まった。

### Ⅳ 次年度へ向けて

#### 1 評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

- ・生徒・保護者・学校評議員によるアンケートを実施したことにより、本校の教育活動をどのように評価しているかを多面的に知ることができた。
- ・重点努力事項について、総合的・客観的に自己評価ができたことで、教職員の課題意識が高まり改善への意欲が高まった。

#### 2 自己評価全体の次年度への取り組みについて

- ・今年度の自己評価と学校評議員による評価に基づき、次年度の「学校経営・運営ビジョン」を作成する。
- ・学校全体でビジョン作成や学校評価に取り組む。

#### 3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

- ・募集定員減に伴い、発生する課題（教育課程の見直し、校務分掌の検討、部活動の統廃合、各種会計予算の検討など）の解決を図る。
- ・重点努力事項のいくつかは次年度に継承する。

#### 4 終わりに

「学校運営・経営ビジョン」については、教職員が十分に理解することはもとより、生徒にもよく理解させ、学校全体で取り組むことができるように努め、次年度以降も学校評価の長所を十分に生かして、本校教育活動の充実を図っていく。